

# 大平さん 岡山県北の中山間地 260キロ駆ける 目に見えないところへの支援こそ求められている



先日の鳥取県中山間地キャラバンに続き、10月28日に岡山県の中山間地キャラバン。尾崎宏子岡山3区予定候補らとともに、鏡野町から県最北端の新庄村へ、さらに県最東端の西栗倉村、最後は勝央町と総移動距離260kmを走りぬいた。

まず**鏡野町**。街頭演説をし、山崎親男町長と懇談。コロナ対策や農業振興策への努力など伺い、「目に見えることだけでなく目に見えないところへの支援こそ求められている。ぜひそういう意識を持っていただきたい」とおっしゃっていたのがとても印象に残った。(写真左)

**新庄村**は人口約800人と県内一小さな村。「日本で最も美しい村」にも登録。小倉博俊村長と懇談。(写真右)

開口一番「小さくても誇れる村。合併しなくてよかった」。年少人口が増えており人口比では県内一。このほど保育園の定員数も増やしたとのこと。

もち米「ひめのもち」のブランド化とそれを主力商品とした道の駅での売上も目標の三倍を稼ぎ、六次産業化を成功させた経過も伺った。国政に対しては、鳥獣被害対策や森林環境税のあり方の見直しなどの要望が寄せられた。



**西栗倉村**は95%が森林に囲まれた林業が基幹産業の村。「百年の森林構想」を10年前から取り組んでおり国の「自治体SDG'sモデル事業」にも指定。青木秀樹村長「『今だけ、金だけ、自分だけ』ではもうダメ。みんなのこと、地球のことを考えて我が村には何ができるか、何をすべきかを模索している」

さらに「国土の7割を占める森林にあてる国の予算は全体の1%もない。あまりに少なすぎるだろう。一桁増やすべき」とも。農林業は国の基幹産業と位置づける日本共産党への期待も語っていただいた。勝央町では党支部の皆さんがつどいを開いてくださった。コロナ対策から野党共闘まで大いに語りあった。(大平さんはこの日夕方、勝央町で開催された「集い」に参加しました)

伺った自治体はコロナ禍の中である意味最先端をいていた。共通するのは「ゆとり」「まばら」「自給自足」「地産地消」「持続可能性」などのキーワード。町村長さんたち、確信に満ちていた。とても学ばされ、そして、私も日本共産党こそ皆さんのこの信念や期待にこたえられるとの確信を強めた。

(大平喜信ツイッターより、要約)。